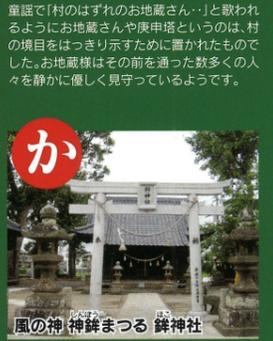
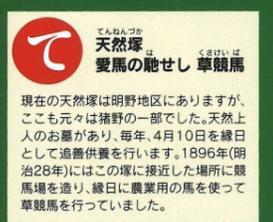
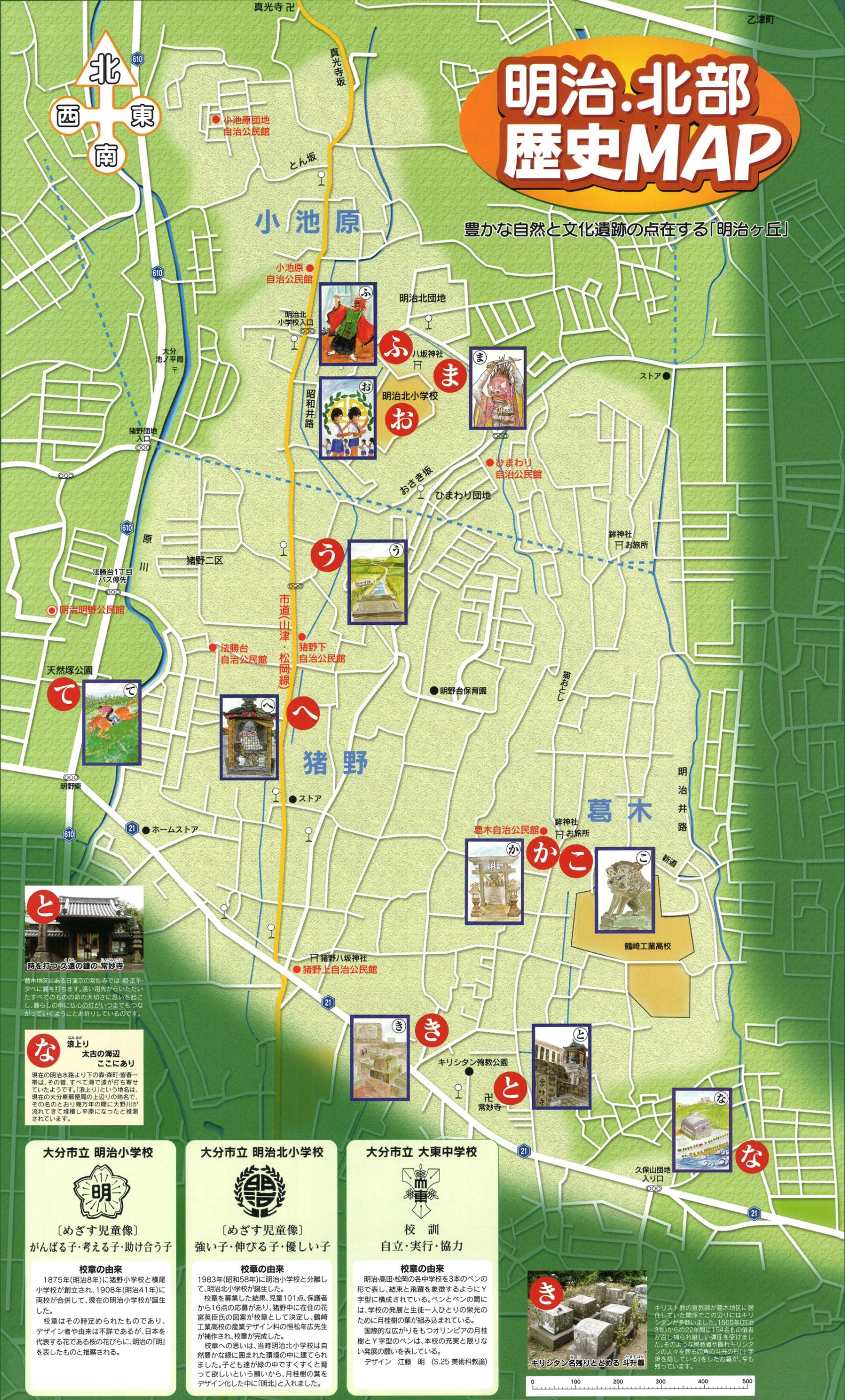


明治.北部 歴史MAP

豊かな自然と文化遺跡の点在する「明治ヶ丘」



と 時を打つ 久遠の鐘の 常妙寺
葛木地区にある日蓮宗の常妙寺では、朝正午夕に鐘を打ちます。遠い祖先からいたいたすすべてのものの命の大切さに思いを起し、暮しの中に仏心の灯がいつまでもつながっていきようにと祈りしているのです。

な 太古の海辺 ここにあり
現在の明治水路より下の森・森町・皆春一帯は、その昔、すべて海で波が打ち寄せていたようです。「浪上り」という地名は、現在の大分県東部の上辺りの地名で、その名のとおり幾万年前の間に大野川が流れてきて堆積し平原になったと推測されています。

大分市立 明治小学校



〔めざす児童像〕
がんばる子・考える子・助け合う子

校章の由来
1875年(明治8年)に猪野小学校と横尾小学校が創立され、1908年(明治41年)に両校が合併して、現在の明治小学校が誕生した。
校章はその時定められたものであり、デザイナーや由来は不詳であるが、日本を代表する花である桜の花びらに、明治の「明」を表したものと推察される。

大分市立 明治北小学校



〔めざす児童像〕
強い子・伸びる子・優しい子

校章の由来
1983年(昭和58年)に明治小学校と分離して、明治北小学校が誕生した。
校章を募集した結果、児童101名、保護者から16名の応募があり、猪野中に在住の花宮英臣氏の図案が校章として決定し、鶴崎工業高校の産業デザイン科の恒松年広先生が補作され、校章が完成した。
校章への思いは、当時明治北小学校は自然豊かな緑に囲まれた環境の中に建てられました。子ども達が緑の中ですくすくと育って欲しいという願いから、月桂樹の葉をデザイン化した中に「明北」と入れました。

大分市立 大東中学校



校訓
自立・実行・協力

校章の由来
明治・高田・松岡の各中学校を3本のペンの形で表し、結束と飛躍を象徴するようにY字型に構成されている。ペンとペンの間には、学校の発展と生徒一人ひとりの栄光のために月桂樹の葉が組み込まれている。
国際的な広がりをもつオリンピックの月桂樹とY字型のペンは、本校の充実と限りない発展の願いを表している。
デザイン 江藤 明 (S.25 美術科教諭)



キリスト教の宣教師が葛木地区に居住していた関係でこの辺りにはキリスト教が多数いました。1660年(万治3年)からの22年間に154名もの信者が召し捕られ厳しい弾圧を受けました。そのような殉教者や隠れキリシタンの人々を葬る四角の斗井の形(十字架を隠している)をしたお墓が、今も残っています。



※説明文は、編集作業に携わった地域の方々が、資料や地域での言い伝えなどを参考に作成しており、史実が確認できていないものもございますので、ご理解願います。

明治.南部 歴史MAP



く 桶の木に見守られる明かつ子
明治小学校の校庭には大きくそびえたつ2本の桶の木があります。この木は開校記念樹として、当時の大久保大分県知事から寄贈されたものです。明治小学校は2008年(平成20年)に100周年を迎え、約100年もの間、明治小学校の児童の姿を見守ってきたこととなります。

う 美しい青田潤す 昭和築路
戦後の食料の需要にこたえるため、1958年(昭和33年)3月に、大野川の豊富な水を利用して完成した水路です。幹線水路は84kmあり、1500ヘクタールの水田を灌漑するようになり、一部は工業用水としても利用されています。

い 稲作の豊年祈る 虫おくり
「虫おくり」とは二目川地区に江戸時代から伝わる伝統行事です。毎年7月25日の夜、害虫の害を駆除するために、たいまつで害虫を誘導し、笛や太鼓を先頭にお祭から水田帯を回り再びお家で待却するものです。

え 千支に流れる矢の方位 百手まつり
天文年間(1532~1554年)から頭人(当座)の庭で五穀豊穡と無病息災を祈願して、その年の恵みの方位の2つを的の的に向けて矢を射ることである。昔は占いで占うという民俗行事で、現在も毎年1月20日に行っています。

は 春さくら 秋はもみじの 高尾山
明治地区の最高峰高尾山(標高128メートル)は、山全体が自然公園となっており、春は桜の花見場所として、また、秋はもみじの木の下で自然観察の場所として、四季を通じて多くの人に愛され親しまれています。

こ 高尾山 六社の社の守り役
現在、明治地区には小池八坂社、喜木神社、猪野八坂社、二目川水分社、岡原天満社、中筋・下組の若宮社の六社が鎮守の社に建てられています。それぞれの神社の拝殿の前には一対のこまが神社の守り役として置かれています。

や 弥生時代の 銅鐸出土 寺の址
高尾山の麓には、かつて、高尾山鏡尊寺というお寺がありました。そのお寺から弥生時代(紀元前3世紀末~紀元後3世紀)の銅鐸が出土し、すぐ近くの水分神社に神宝として大切に祀られています。

わ わだつみの 神祭りたる 水分社
二目川の水分神社は、平安時代の1172年(承安2年)に鏡津見命(水の神様)を祭神として創設され、高尾山の麓にある八坂龍王龍神の池から取り上げられた神石も祀られています。この神は旱魃に雨を祈ると必ず豊産があるといわれています。

み 水清き 龍神池に 神宿る
1172年(承安2年)は日照り続きで大干ばつが年でした。しかし、龍神池の神様のお告げどおり池の底に沈んでいる石を取り上げて大切に祀ったところ、雨が降ってきて五穀が実ったといわれています。この池はオオイトサシヨウワオのすみかでもあります。

ま 真実姿目にも鮮やか 明治の神楽
明治地区の神楽としては、二目川と小池原が有名です。どちらも陸上で生活し、水清き所に生息し、天然記念物に指定されているので、大切に保護しなければなりません。生息数が少ないため、絶滅危惧種にも指定されています。鶴岡川近くの池でも見ることが出来ます。

豊かな自然と文化遺跡の点在する「明治ヶ丘」

む 無病息災 五穀豊穡 六地藏
六地藏は人を救うために六体に分身したお地蔵様です。鶴野の馬場の六地藏は、江戸時代の処刑場獄門前にあつたものが、今は現在地に安置されています。祈ると首癪を治してくれるといわれています。

さ 五月晴れ 蛭の里の 鯉のぼり
2004年(平成14年)「夏の都市ホリデープラン」の一環として、明治地区では鶴岡川に沿った休耕地を利用して四季折々の花を植栽し、小川の周辺に虫を捕まえて活動の場をもちました。一帯を「虫の里」と名づけ、5月には約80匹の鯉のぼりを掲げる体験活動などを子どもたちと一緒にしています。

ほ 蛭舞う 鶴岡川に 人憩う
少なくなった蛭を以前のように増やしたいと考えた地域の人々が、蛭が育つ環境づくりに取り組むために、鶴岡川と鶴岡川の周辺には蛭が舞うようになり、ここを訪れる人々の心を癒してくれています。

り 理想郷 緑の森に サンショウウオ
オオイトサシヨウウオはカエルの仲間、水中と陸上で生活します。水清き所に生息し、天然記念物に指定されているので、大切に保護しなければなりません。生息数が少ないため、絶滅危惧種にも指定されています。鶴岡川近くの池でも見ることが出来ます。

ち 地に眠る 横尾遺跡の 文化財
約4000年前の縄文時代後期に造られたと推定されるどんぐりの貯蔵穴が2001年(平成13年)4月に発見されました。また、同年5月9日には、約3000年前の縄文時代早期末の建築部材などが見つかり、古代人がここで暮らしていたことが分かりました。

し 縄文の 香りを残す貝塚天神
貝塚天神は横尾バス停のそばにあります。1966年(昭和41年)の学術調査で貝の量が多いことで有名になりました。約6000年前の縄文時代前期の貝塚です。いつから貝塚の上に神社が建立され貝塚天神と崇められるようになりました。

た ため池に 傳ふ祖先の 汗と知恵
明治地区には10数箇所のため池があります。これは、丘陵地で米作りをするために、谷川をせき止め堤防を築き、水路を切り開いて山野を開墾してきた祖先の人々の、血のしむような苦勞の結果出来上がったため池です。

ひ ひっそりと 守り継がれて 観音像
岡原の中尾地区には信心深い地区の人々が守ってきた小さな観音像があります。ご本尊は観音像で、毎月決まった日に集っては掃除をし、花を手向けお経を上げて祀っています。境内には幾体かの地藏様もあり、その一つにイボ地藏があります。

す スポーツの殿堂 ドームは明治の 宝物
明治の南西の丘にそびえ立つドームは、2002年(平成14年)のワールドカップサッカー、2003年(平成15年)の全国緑化フェアの会場となりました。2008年(平成20年)には大分国体の主会場になりました。まさに、日本に誇れる明治の宝です。

の どのかな大地 花を咲かせてロードビア
「岡原花吹そう会」は休耕地や道路沿いに花苗を植えたりサツマイモの栽培体験農園を設けたりして活動しています。四季の花々が訪れる多くの人々に「癒しの場」を提供しており、文字通り「日本一きれいな街づくり」を目指しています。